

幼稚園の『朝のうた』についての一考察

松園 聡美 久富 さよ子

A Study of Singing at a Kindergarten Morning Meeting

Satomi Matsuzono Sayoko Hisatomi

(2009年11月27日受理)

I. 研究目的

幼稚園、保育園での音楽活動は、歌うこと、楽器で演奏すること、身体で表現すること等、多岐にわたっている。日常の保育の中で、保育者は音楽活動について様々な悩みを抱えながらも日頃の保育に追われ、自らの音楽活動を振り返ることが難しい状況にある。これまでの保育現場における幼児の音楽活動に関する研究をみると、幼児の日常の話し声や歌唱時のピッチや音程に関する調査^{1) 2) 3)}、無伴奏時における声域の調査^{4) 5) 6)}、どなり声、つくりうたに関する調査^{7) 8)}や、幼稚園や保育園、家庭でどのような歌が歌われているか、といった歌唱教材に関する調査^{9) 10)}等が行われている。しかし、園生活の中で子どもが歌唱教材とされる歌を、日常的にどのように歌っているのか、という実態を具体的に分析した調査は少ない。

一般的に、子どもの歌の習得過程は、まず歌詞を手掛かりとして歌を覚え、歌詞が拍に乗り、リズムカルに歌われるようになり、次に、旋律に乗って歌えるようになるといわれている^{11) 12)}。園生活の中での歌唱教材も、子どもの音楽的な発達や学習方法を踏まえながら教材を選択すべきであると思われるが、一般的に行事や季節に応じた教材が優先的に選択される傾向にあり、教材を子どもの側からの観点に立って選択し、吟味されることは少なかったように思われる。このような傾向は、幼稚園、保育園で毎日歌われる『朝のうた』においてもみられ、年少から年長までの全年齢で同じ教材が日々慣習的に歌われている現状がみられる。したがって、本研究では、幼稚園の朝の会で歌われる『朝のうた』を、子どもたちがどのように歌っているのかについて分析し、具体的にどのような特徴がみられるのか、その実態を明らかにし、教材の選択や指導方法を考える

うえでの手がかりを得たいと思う。

II. 調査方法

1. 調査対象

今回の調査対象は福岡市内K幼稚園の年長児クラス32名、年中児クラス35名、年少児クラス25名の子どもたちである。K幼稚園は福岡市西部の閑静な住宅地に位置しており、毎日、子ども達がのびのびと遊ぶ姿がみられる。子ども達は9:00~10:00に登園し、自由遊びの後、10:30頃から各保育室で朝の会が始まる。

K幼稚園の『朝のうた』とは、年間を通して毎日の朝の会で歌われる歌で「ならびましょう」(作詞者不詳・作曲者不詳・4/4・Ddur・音域 a~h¹)「トントンまえ」(原曲「きらきらぼし」(フランス民謡)の替え歌・4/4・Ddur・音域 d¹~h¹)、「おむねをはりましょ」(作詞者不詳・作曲者不詳・2/4・Cdur・音域 c¹~a¹)「おはようのうた」(田中忠正作詞 河村光陽作曲・2/4・Cdur・音域 c¹~d²)の4曲からなる。全曲共、動作を交えながらメドレー風に歌われる。歌唱の際は担任教諭がピアノで伴奏しながら子どもと一緒に歌っている。K幼稚園では年少、年中、年長の全クラスすべてで同じ『朝のうた』を歌っている。

2. 調査方法

幼児を対象とした歌に関する実態調査は様々な方法が試みられており、共通したものはみられない。その理由として、日常生活の中で、できるだけ自然な状態で子どもの声を把握する研究の方法が確立していないことによる。調査によって本来の幼児の歌唱表現の実態を正確にとらえることは非常に難しい。なぜなら、日常と異なった環境や状況の中で、

子どもにマイクを向けて第3者が調査することは、子ども本来の歌の実態の一部をとらえることに留まるように思われるからである¹³⁾。

本来、幼稚園における歌唱教材は現場の教師が子どもの声を自分の耳で判断し、子どもの音楽的な発達や表現を理解しつつ、適切な教材を選択することが望ましいと考える。今回の調査では、歌唱における子どもの実態を知る方法として、子どもたちが集団で歌っている状態を録音し、分析することとした。集団で歌う歌声を分析することは、個々の声をとらえにくいという問題はみられるが、全体的な傾向は把握されるのではないと思われる。したがって、今回の調査においては、日常の保育と同じ状況設定のもとで、クラス全員が歌っている歌声を録音し、分析を行った。

調査はH20年5月、7月、H21年3月の計3回行った。そのうち、分析の対象はH20年7月分とした。この時期を選んだ理由は、保育者が録音しており、子どもの実態が最も自然に表れていると思われること、年少児が入園後の園生活に馴染む時期であることによる。

「ならびましよう」「トントンまえ」「おむねをほりましょ」の3曲は1番のみを歌っている。「おはようのうた」は1番の最後4小節を前奏として、2番まで歌っている。全4曲について、各年齢別に言葉と呼吸（ブレス）、リズムとテンポ、旋律の側面より分析を行った。なお、旋律の分析については、歌声の中間部のピッチを判定し、採譜を行った。

Ⅲ. 結果

譜例1.2.3に『朝のうた』全4曲のうち、各年齢別の「おはようのうた」を示している。なお、各曲のテンポは担任がピアノ伴奏で提示したテンポを示している。

1. 年長児

(1) 「ならびましよう」

① 言葉と呼吸

呼吸は2小節毎に行われており、歌詞については8呼間^{注1)}のまとまりがみられる。全体的に明瞭な声で発音されている。1拍に2音節が当てられているが、一語一語を明確に発音できている。8小節目の「ラン・ラン・ラン」、13～16小節目の「ラン・ラン・ラン・ラン～」のフレーズは「ラ・ラ・ラ・ラ～」と発音されており、「ン」が省略されている。

② リズムとテンポ

この歌の原曲のテンポは指定されていない。歌のテンポは♩=132であった。歌の大部分は♩・♩・♩・

の付点リズムのフレーズから構成されている。1, 2小節目の「なら・びま・しょう」[♩・♩・♩・♩]のフレーズの付点リズムは正確に歌われている。また、11, 12小節目の「いち・に・さん・し・ご・ろく・しち・はち」[♩・♩・♩・♩・♩・♩・♩・♩]のフレーズもテンポに乗って正確に歌われている。その他の部分も全体的にはほぼ正確である。

③ 旋律

この歌の原曲の開始音はd¹音で音域はa～h¹である。1, 2小節目の「なら・びま・しょう」[d¹ d¹・d¹ fis¹・a¹]はa¹音の同音進行で歌われている。3, 4小節目の「は・やく・きれ・いに・なら・びま・しょう」[h¹・a¹ h¹・a¹ a¹・fis¹ d¹・e¹ e¹・e¹ fis¹・d¹]は[a¹・a¹ a¹・a¹ a¹・fis¹ fis¹・e¹ e¹・e¹ e¹・d¹]と歌われており、部分的にa¹, fis¹, e¹音の同音になっている。5, 6小節目の「いち・れつ・いち・れつ・おな・らび・しま・しよ」[d¹ d¹・aa・fis¹ fis¹・d¹ d¹・e¹ e¹・aa・d¹ e¹・fis¹]のd¹～aの完全4度下降, a～fis¹の長6度上昇, fis¹～d¹の長3度下降, e¹～aの完全5度下降は, d¹音の同音進行で歌われる傾向がみられる。7, 8小節目の「みぎ・むいて・ひだり・むいて」[g¹ g¹・e¹ e¹・fis¹ fis¹・d¹ d¹]の短3度, 長3度下降の連続は[fis¹・e¹・fis¹・e¹]の長2度下降の連続となっている。9, 10小節目の「あし・ぶみ・トン・トン・そろ・えま・しょう」[a¹ h¹・a¹ fis¹・a¹ fis¹・a¹ h¹・a¹ fis¹・a¹]の長2度上昇・下降, 短3度下降・上昇の連続, 長2度上昇・下降, 短3度下降・上昇はa¹音の同音進行で歌われている。11, 12小節目の「いち・に・さん・し・ご・ろく・しち・はち」[h¹・a¹・g¹・fis¹・a¹・g¹・fis¹・e¹]の順次下降形は正確に歌われている。13, 14小節目の「ラ・ラ・ラ・ラ・ラ・ラ・ラ・ラ」[d¹・a・fis¹・d¹・e¹・a・d¹ e¹・fis¹]の完全4度下降, 長6度上昇, 長3度下降, 長2度上昇, 完全5度下降, 完全4度上昇, 長2度上昇, 長2度上昇の部分は[d¹・c¹・e¹・d¹・e¹・d¹・d¹ e¹・fis¹]のように歌われており, 長2度下降, 長3度上昇, 長2度下降・長2度上昇・長2度下降, 完全1度(同音), 長2度上昇, 長2度上昇のように変化している。15, 16小節目の「ラン・ラン・ラン・ラン・ラン・ラン・ラン」[g¹・e¹・fis¹・d¹・e¹・a・d¹]のフレーズは[g¹・e¹・fis¹・d¹・e¹・c¹・d¹]となっており, a音はc¹音に変化されている。

④ まとめ

以上のような結果から、年長児の「ならびましよう」は、明瞭な発音で8呼間を一呼吸にまとめて歌

われており、「ランランラン～」のフレーズの「ン」は省略される傾向がみられた。

リズムも全体的に正確であり、付点リズムも拍に乗ってリズムカルであった。旋律は全体的に輪郭がほぼ正確にとらえられているが、「いちれついちれつおならびしましょ」「ランランラン～」等の旋律の上昇下降の激しい部分は同音となる傾向がみられた。

(2) 「トントンまえ」

① 言葉と呼吸

呼吸は8呼間毎であり、歌詞のまとまりに従って行われている。歌の歌詞はすべて「トン・トン・ま・え」のフレーズの連続であり、全体的に明瞭に発音できている。2, 4, 6, 10小節目の「トン・トン・ま・え」は「トン・トン・まー」と発音されており、最後の「え」は省略される傾向にある。

② リズムとテンポ

原曲のテンポは指定されていない。歌のテンポは♩=138であった。全体が「トン・トン・ま・え」[♪・♪・♪・♪]の4分音符のリズムフレーズの繰り返しから構成されている。曲全体を通して正確であり、リズムカルに歌われている。2, 4, 6, 10小節目の「まえ」[♪・♪]は「まー」[♪]となっており、「え」を省略する傾向がみられる。

③ 旋律

この歌の原曲の開始音はd¹音で、音域はd¹～h¹である。2, 10小節目の「トン・トン・ま・え」[h¹・h¹・a¹・a¹]はa¹音の同音進行で歌われているが、その他の部分はほぼ旋律に乗って正確に歌われている。

④ まとめ

以上のような結果から、年長児の「トントンまえ」は、8呼間が一呼吸で歌われており、フレーズのまとまりが感じられる。「トントンまえ」のフレーズの「え」は省略される傾向がみられた。リズムは部分的に4分音符を2拍に伸ばして歌う傾向がみられるが、全体的には拍に乗ってリズムカルであった。旋律は部分的に同音で歌われているが、全体的に比較的正確なピッチであった。

(3) 「おむねをはりましょ」

① 言葉と呼吸

呼吸は4小節目毎であり、8呼間のまとまりがみられる。1拍に2小節目が当てられているが、全体的に明瞭に発音されている。

② リズムとテンポ

原曲は[♪・♪・♪・♪・♪・♪]の付点と8分音符のリズムフレーズからなるが、K幼稚園では[♪・♪・♪・♪・♪]の8分音符の連続リズムに編曲

して歌っている。この歌の原曲の指定テンポはAllegretto (♩=104~132)である。歌われたテンポは♩=126であった。[♪・♪・♪・♪・♪]の8分音符の連続リズムや[♪・♪・♪・♪]の8分音符と4分音符のリズムフレーズで構成されているが、全体的に拍に乗ってリズムカルに歌われている。

③ 旋律

この歌の原曲の開始音はg¹音であり、音域はc¹～a¹である。1, 2小節目の「おむ・ねを・はり・ましょ」[g¹g¹・g¹a¹・g¹g¹・g¹e¹]はg¹音の同音進行で歌われている。3, 4小節目の「のば・しま・しょう」[c¹c¹・d¹d¹・e¹]はe¹音の同音進行になっている。また、5~8小節目の「おて・ては・りょう・ほう・うし・ろに・おい・て」[c¹c¹・c¹d¹・e¹g¹・g¹f¹・f¹e¹・d¹c¹・d¹]の部分は[d¹d¹・d¹d¹・e¹g¹・g¹f¹・f¹e¹・d¹d¹・d¹]で歌っており、最初と最後のc¹音はd¹音で歌われている。9~12小節目の「ゲー・ンと・おむ・ねを・はり・ましょ・う」[c¹・c¹d¹・e¹g¹・g¹f¹・e¹e¹・d¹d¹・c¹]は[e¹・e¹e¹・e¹g¹・g¹f¹・e¹e¹・d¹d¹・d¹]と歌われており、最初のc¹, d¹音はe¹音で歌われ、部分的にe¹音, d¹音の同音になる傾向がみられる。13~16小節目の「りっ・ぱな・しせ・いに・なり・まし・た」[c¹・c¹d¹・e¹g¹・g¹f¹・e¹e¹・d¹d¹・c¹]は[d¹・d¹d¹・e¹f¹・f¹f¹・e¹e¹・d¹d¹・d¹]で歌われており、c¹音は長2度上のd¹音へ、g¹音は長2度下のf¹音となっている。

⑤ まとめ

以上のような結果から、年長児の「おむねをはりましょ」は言葉が明瞭に発音されており、8呼間を一呼吸でまとめて歌い、フレーズのまとまりが感じられた。リズムも全体的に正確に歌われていた。旋律は、部分的に旋律の上昇、下降の部分がd¹, e¹, f¹, g¹音の同音で歌われており、c¹音はd¹, e¹音, g¹音はf¹音となる傾向がみられた。

(4) 「おはようのうた」

① 言葉と呼吸

この歌では曲の最後の15~18小節目「きょう・も・なか・よく・あそ・びま・しょう」の4小節を前奏として、2番までが歌われている。また、前奏の最後の部分と歌の終わりでは、子ども達全員が飛び上がる動作を行っている為、全員が「ピョン」という掛け声を拍に合わせて発音している。

言葉は全体的に明瞭であり、一語一語を明確に発音している。また、呼吸は「きょう・も・なか・よく・あそ・びま・しょう」「おは・よう」「おは・よう」「せん・せい・おは・よう」「みな・さん・おは・よう」「おひ・さま・にこ・にこ・よい・て

ん・き」「きょう・も・なか・よく・あそ・びま・しょう」のように言葉のまとまりに従って行われている。

② リズムとテンポ

原曲の指定テンポは Moderato (♩=92~104) であるが、歌のテンポは ♩=132 であった。歌の大部分が ♩、♪、♪、♪、♪、♪、♪、♪ の付点のリズムフレーズから構成されているが、全体的に正確であり、リズムカルである。

③ 旋律

1番：この曲の開始音は c^2 音で音域は $c^1 \sim d^2$ である。1, 2小節目の「きょう・も・なか・よく」 $[c^2 \cdot a^1 \cdot d^2 c^1 \cdot a^1 g^1]$ の $c^2 \sim a^1$ の短3度下降, $a^1 \sim d^2$ の完全4度上昇, $d^2 \sim c^2$ の長2度下降, $c^2 \sim a^1$ の短3度下降, $a^1 \sim g^1$ の長2度下降の部分は a^1 音の同音で歌われている。3, 4小節目の「あそ・びま・しょう」 $[e^1 g^1 \cdot e^1 d^1 \cdot c^1]$ は $[e^1 \cdot g^1 \cdot e^1 e^1 \cdot d^1]$ のように歌われており, $e^1 \sim g^1$ の短3度上昇は正確であるが, $e^1 \sim d^1$ の長2度下降は e^1 音の同音になっている。また, 5, 6小節目の「おは・よう・おは・よう」 $[e^1 g^1 \cdot g^1 \cdot e^1 g^1 \cdot g^1]$ の $e^1 \sim g^1$ の短3度上昇はほぼ正確に歌われている。7, 8小節目の「せん・せい・おは・よう」 $[a^1 \cdot a^1 g^1 \cdot e^1 g^1 \cdot g^1]$ は $[gis^1 \cdot gis^1 \cdot e^1 g^1 \cdot g^1]$ で歌われ, a^1 音は半音下がった gis^1 音で歌われている。9, 10小節目の「みな・さん・おは・よう」 $[a^1 c^2 \cdot g^1 e^1 \cdot d^1 g^1 \cdot g^1]$ の $a^1 \sim c^2$ の短3度上昇, $c^2 \sim g^1$ の完全4度下降, $g^1 \sim e^1$ の短3度下降, $e^1 \sim d^1$ の長2度下降, $d^1 \sim g^1$ の完全4度上昇は部分的に a^1, e^1 音の同音進行で歌われている。11~14小節目の「おひ・さま・にこ・にこ・よい・てん・き」 $[e^1 e^1 \cdot e^1 g^1 \cdot e^1 d^1 \cdot c^1 c^1 \cdot d^1 e^1 \cdot g^1 a^1 \cdot g^1]$ は $[e^1 e^1 \cdot e^1 g^1 \cdot e^1 e^1 \cdot d^1 d^1 \cdot d^1 e^1 \cdot g^1 \cdot g^1]$ となっており, 旋律の上昇下降はとらえているが, c^1 音は d^1 音に変化して歌われる傾向がみられた。15, 16小節目の「きよ・も・なか・よく」 $[c^1 \cdot a^1 \cdot d^2 c^1 \cdot a^1 g^1]$ は a^1 音の同音で歌われていた。17, 18小節目の「あそ・びま・しょう」 $[e^1 g^1 \cdot e^1 d^1 \cdot c^1]$ は $[f^1 g^1 \cdot e^1 e^1 \cdot e^1]$ となっており, 部分的に e^1 音の同音で歌われていた。

2番：1, 2小節目の「おは・よう・おは・よう」, 4小節目「おは・よう」は正確であるが, 3小節目の「せん・せい」 $[a^1 \cdot a^1 g^1]$ は $[a^1 \cdot a^1]$ で歌われている。5, 6小節目の「みな・さん・おは・よう」 $[a^1 c^1 \cdot g^1 e^1 \cdot d^1 g^1 \cdot g^1]$ の短3度上昇, 完全4度下降, 短3度下降, 長2度下降, 完全4度上昇は $[a^1 a^1 \cdot g^1 \cdot e^1 g^1 \cdot g^1]$ と歌われ, 部分的に a^1 音の同音によって歌われている。7~10小節

目の「おす・なば・まま・ごと・すべ・りだ・い」 $[e^1 e^1 \cdot e^1 g^1 \cdot e^1 d^1 \cdot c^1 c^1 \cdot d^1 e^1 \cdot g^1 a^1 \cdot g^1]$ は $[e^1 e^1 \cdot e^1 g^1 \cdot e^1 d^1 \cdot d^1 d^1 \cdot e^1 e^1 \cdot g^1 g^1 \cdot g^1]$ と歌っており, 部分的に d^1 音と g^1 音の同音で歌われる傾向がみられた。11~14小節目の「きょう・も・なか・よく・あそ・びま・しょう」 $[c^2 a^1 \cdot d^2 c^1 \cdot a^1 g^1 \cdot e^1 g^1 \cdot e^1 d^1 \cdot c^1]$ は, $[a^1 a^1 \cdot a^1 a^1 \cdot a^1 g^1 \cdot e^1 g^1 \cdot e^1 e^1 \cdot e^1]$ のように部分的に a^1, e^1 音の同音によって歌われている。

④ まとめ

以上のような結果から, 年長児の「おはようのうた」は, 言葉は明瞭であり, 言葉のまとまりに従って呼吸が行われる傾向がみられた。リズムの面では付点リズムが拍に乗って正確に歌われていた。旋律の輪郭はほぼ正確であるが, 部分的に旋律の上昇下降が激しい部分は, e^1, a^1 音の同音で歌われる傾向がみられた。

2. 年中児

(1) 「ならびましょう」

① 言葉と呼吸

呼吸は2小節目毎に行われ, 8呼吸ずつのまとまりがみられる。3小節目の「は・やく・きれ・いに」の「く」「に」, 6小節目の「おな・らび・しま・しょう」の「び」は省略されている。8小節目の「ラン・ラン・ラン」, 13~16小節目の「ラン・ラン・ラン・ラン」のフレーズは「ラ・ラ・ラ・ラ」と発音されており, 「ン」は省略されている。

② リズムとテンポ

歌のテンポは ♩=144 である。1, 2小節目の「なら・びま・しょう・なら・びま・しょう」 $[\♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪]$ は $[\♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪]$ のように「ましよう」の部分が拍に乗れず, 遅れて歌われている。3, 4小節目の「は・やく・きれ・いに・なら・びま・しょう」 $[\♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪]$ は $[\♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪]$ のように部分的に付点リズムで歌われている。5, 6小節目の「いち・れつ・いち・れつ・おな・らび・しま・しょう」 $[\♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪]$ は $[\♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪]$ のように, 拍に乗れず, 遅れて歌われる傾向がみられ, 付点リズムのリズムカルな躍動感がない。7, 8小節目の「みぎ・むいて・ひだり・むいて」 $[\♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪]$ の付点リズムは $[\♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪]$ の4分音符のリズムで歌われている。9, 10小節目の「あし・ぶみ・トン・トン・そろ・えま・しょう」 $[\♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪ \cdot \♪]$

・♪], 11, 12小節目の「いち・に・さん・し・ご・ろく・しち・はち」[♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪]は比較的正確に歌っている。13~16小節目の「ラ・ラ・ラ・ラ〜」[♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪]は拍に乗れておらずリズムカルな躍動感がない。

③ 旋律

1, 2小節目の「なら・びま・しょう」[d¹d¹・d¹ fis¹・a¹]は[fis¹ fis¹・fis¹・fis¹ a¹]で歌われており, fis¹音の同音進行となる傾向がみられる。3, 4小節目の「は・やく・きれ・いに・なら・びま・しょう」[h¹・a¹ h¹・a¹ a¹・fis¹ d¹・e¹ e¹・e¹ fis¹・d¹]は[a¹・a¹・a¹ a¹・a¹・gis¹ gis¹・gis¹・gis¹ g¹]で歌われ, 部分的にa¹, gis¹音の同音進行となる傾向がみられる。5, 6小節目の「いち・れつ・いち・れつ・おな・らび・しま・しょ」[d¹d¹・aa・fis¹ fis¹・d¹ d¹・e¹ e¹・aa・d¹ e¹・fis¹]はfis¹音の同音進行で歌われる傾向がみられる。7, 8小節目の「みぎ・むいて・ひだり・むいて・ラン・ラン・ラン」[g¹ g¹・e¹ e¹・fis¹ fis¹・d¹ d¹・e¹・a・d¹]はfis¹音の同音で, 9, 10小節目の「あし・ぶみ・タン・タン・そろ・えま・しょう」[a¹ h¹・a¹ fis¹・a¹・fis¹・a¹ h¹・a¹ fis¹・a¹]はgis¹音の同音進行となっている。11, 12小節目の「いち・に・さん・し・ご・ろく・しち・はち」[h¹・a¹・g¹ fis¹・a¹・g¹・fis¹・e¹]は[h¹・a¹・a¹・g¹・a¹・g¹・g¹・g¹]と歌われており, 部分的にa¹, g¹の同音で歌われる傾向がみられる。13~15小節目の「ラン・ラン・ラン・ラン〜」[d¹・a¹・fis¹・d¹・e¹・a・d¹ e¹・fis¹・g¹・e¹・fis¹・d¹]はg¹音の同音で, 最後の16小節目の「ラン・ラン・ラン」[e¹・a・d¹]は[e¹・e¹・d¹]で歌われており, e¹~aの完全5度下降は, e¹の同音となっている。

④ まとめ

以上のような結果から, 年中児の「ならびましよう」は言葉が比較的明瞭であり, 8呼間のまとまりで歌われていたが, 「ランランラン」の「ン」は省略される傾向がみられた。リズムは全体的にリズムカルであるが, 部分的に拍に乗れておらず, 遅れる箇所がみられた。旋律は歌の大部分がfis¹, g¹, gis¹, a¹音の同音によって歌われていた。

(2) 「トントンまえ」

① 言葉と呼吸

8呼間をまとめて歌い, フレーズのまとまりが感じられる。全体的に明瞭に発音されている。2, 4, 5, 8小節目の「トン・トン・ま・え」は「トン・トン・まー」と発音されており「え」が省略されている。

② リズムとテンポ

歌のテンポは♪=138である。2, 4, 5, 8小節目の「トン・トン・ま・え」[♪・♪・♪・♪]は[♪・♪・♪・♪]のように3, 4拍目をまとめ, 2拍に伸ばして歌われている。その他の部分は全体的に正確に歌われている。

③ 旋律

1, 2小節目の「トン・トン・ま・え・トン・トン・ま・え」[d¹・d¹・a¹・a¹・h¹・h¹・a¹・a¹]は[e¹・e¹・f¹・f¹・f¹・f¹・f¹・f¹]で歌われており, e¹, f¹音の同音進行になっている。3, 4小節目の[g¹・g¹・fis¹・fis¹・e¹・e¹・d¹・d¹]は[f¹・f¹・f¹・f¹・e¹・e¹・e¹・e¹]で歌われ, e¹, f¹音の同音進行になっている。また, 5, 6小節目の[a¹・a¹・g¹・g¹・fis¹・fis¹・e¹・e¹]は[gis¹・gis¹・g¹・g¹・fis¹・fis¹・f¹・f¹]となり, f¹~gis¹の同音で, 7, 8小節目の[a¹・a¹・g¹・g¹・fis¹・fis¹・e¹・e¹]は[a¹・a¹・g¹・g¹・fis¹・fis¹・f¹・f¹]となり, 最後のe¹音がf¹音で歌われている。9, 10小節目の[d¹・d¹・a¹・a¹・h¹・h¹・a¹・a¹]は[e¹・e¹・g¹・g¹・g¹・g¹・g¹・g¹]で歌われ, e¹, g¹の同音進行になっている。11, 12小節目の[g¹・g¹・fis¹・fis¹・e¹・e¹・d¹]は[g¹・g¹・fis¹・fis¹・e¹・e¹・dis¹]で歌われており, 最後のd¹音はdis¹音になっている。

④ まとめ

以上のような結果から, 年中児の「トントンまえ」は, 8呼間を一呼吸でまとめており, 言葉は明瞭に発音されていた。また, 部分的に「トン・トン・ま・え」の「え」が省略される傾向がみられた。リズムは全体的に正確であるが, 「トントンまー」のように, 部分的に3, 4拍目をまとめて2拍に延ばす傾向がみられた。また, 旋律は全体的にe¹, f¹, g¹, gis¹音の同音によって歌われる傾向がみられた。

(3) 「おむねをはりましょ」

① 言葉と旋律

呼吸は4小節毎であり, 8呼間のまとまりがみられる。全体的に, 言葉はやや明瞭であるが, 5~8小節目の「おて・ては・りょう・ほう・うし・ろに・おい・て」は言葉の発音がバラバラで不明瞭であり, 一本調子に近い形で叫んで歌う傾向がみられた。

② リズムとテンポ

歌のテンポは♪=144であった。1~4小節目の「おむ・ねを・はり・ましょ・のぼ・しま・しょ」[♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪]の8分音符の連続リズムは比較的正確に歌われている。5~8小節目の「おて・ては・りょう・ほう・う

し・ろに・おい・て」[$\text{♪} \cdot \text{♪} \cdot \text{♪} \cdot \text{♪} \cdot \text{♪} \cdot \text{♪} \cdot \text{♪} \cdot \text{♪} \cdot \text{♪} \cdot \text{♪}$] は拍に乗れず遅れており、リズムミカルな躍動感はない。9小節目以降は比較的正確である。

③ 旋律

1～4小節目の「おむ・ねを・はり・ましよ・のば・しま・しよ」[$g^1 g^1 \cdot g^1 a^1 \cdot g^1 g^1 \cdot g^1 e^1 \cdot c^1 c^1 \cdot d^1 d^1 \cdot e^1$] は g^1 音の同音で歌われている。5～8小節目の「おて・ては・りょう・ほう・うし・ろに・くん・で」[$c^1 c^1 \cdot c^1 d^1 \cdot e^1 g^1 \cdot g^1 f^1 \cdot f^1 e^1 \cdot d^1 c^1 \cdot d^1$] は fis^1 音の同音で歌われている。9～12小節目の「ゲー・ンと・おむ・ねを・はり・ましよ・う」[$c^1 \cdot c^1 d^1 \cdot e^1 g^1 \cdot g^1 f^1 \cdot e^1 e^1 \cdot d^1 d^1 \cdot c^1$] は f^1 の同音で、13～16小節目の「りっ・ぱな・しせ・いに・なり・まし・た」[$c^1 \cdot c^1 d^1 \cdot e^1 g^1 \cdot g^1 f^1 \cdot e^1 e^1 \cdot d^1 d^1 \cdot c^1$] は e^1 の同音で歌われる傾向がみられた。

④ まとめ

以上のような結果から、年中児の「おむねをはりましよ」は一本調子に近い形で叫ぶような歌い方で、8呼吸を一呼吸にまとめて歌われていた。全体的に8分音符の連続リズムは正確に歌われているが、部分的にリズムが間延びしている。旋律はほぼ正確に歌えているが、部分的に e^1 , f^1 , fis^1 , g^1 音の同音によって歌われる傾向がみられた。

(4) 「おはようのうた」

① 言葉と旋律

年長児と同様に、前奏の最後の部分と歌の終わりで子ども達全員が飛び上がる動作を行っている為、全員が「ピョン」という掛け声を発声している。

1番では1～4小節が一呼吸で歌われている。1～4小節目の「きょう・も・なか・よく・あそ・びま・しょう」は叫ぶように歌っている。5小節目は歌われていない。8小節目の2拍目、10～14小節目は不明瞭である。その他の部分はやや明瞭に歌われている。

2番では、1小節目は歌われていない。2, 6～8小節目は言葉が不明瞭である。11小節目以降の「きょう・も・なか・よく・あそ・びま・しょう」のフレーズは叫んでおり、怒鳴って歌う傾向がみられた。

② リズムとテンポ

歌のテンポは $\text{♪} = 138$ である。1番の前奏「きょう・も・なか・よく・あそ・びま・しょう」[$\text{♪} \cdot \text{♪} \cdot \text{♪} \cdot \text{♪} \cdot \text{♪} \cdot \text{♪} \cdot \text{♪} \cdot \text{♪} \cdot \text{♪} \cdot \text{♪}$] は [$\text{♪} \cdot \text{♪} \cdot \text{♪} \cdot \text{♪}$] となっており、付点リズムは4分音符や8分音符で歌われている。6小節目の「おは・よう」[$\text{♪} \cdot \text{♪}$] は [$\text{♪} \cdot \text{♪}$]、7, 8

小節目の「せん・せい・おは・よう」は [$\text{♪} \cdot \text{♪} \cdot \text{♪} \cdot \text{♪}$] (不明瞭) で歌われており、付点リズムは4分音符となる傾向がみられる。15～18小節目の「きょう・も・なか・よく・あそ・びま・しょう」は [$\text{♪} \cdot \text{♪} \cdot \text{♪} \cdot \text{♪} \cdot \text{♪} \cdot \text{♪} \cdot \text{♪} \cdot \text{♪}$] となり、付点リズムは8分音符の連続リズムに変化している。

2番の3, 4小節目の「せん・せい・おは・よう」[$\text{♪} \cdot \text{♪} \cdot \text{♪} \cdot \text{♪}$] は [$\text{♪} \cdot \text{♪} \cdot \text{♪} \cdot \text{♪}$]、11～14小節目の「きよー・も・なか・よく・あそ・びま・しょう」[$\text{♪} \cdot \text{♪} \cdot \text{♪} \cdot \text{♪} \cdot \text{♪} \cdot \text{♪} \cdot \text{♪} \cdot \text{♪}$] は [$\text{♪} \cdot \text{♪} \cdot \text{♪} \cdot \text{♪}$] で歌われている。

③ 旋律

1番：前奏の1～4小節目の「きょう・も・なか・よく・あそ・びま・しょう」[$c^1 \cdot a^1 \cdot d^2 c^1 \cdot a^1 g^1 \cdot e^1 g^1 \cdot e^1 d^1 \cdot c^1$] は a^1 音の同音で歌われている。6小節目の「おは・よう」[$e^1 g^1 \cdot g^1$] は [$f^1 \cdot g^1 g^1$] で歌われており、 $e^1 \sim g^1$ の短3度上昇は $f^1 \sim g^1$ の長2度上昇になっている。7～8小節目の「せん・せい・おは」[$a^1 \cdot a^1 g^1 \cdot e^1 g^1$] は gis^1 音の同音で、9小節目の「みな・さん」[$a^1 c^1 \cdot g^1 e^1$]、15～18小節目の「きよー・も・なか・よく・あそ・びま・しょう」[$c^2 \cdot a^1 \cdot d^2 c^1 \cdot a^1 g^1 \cdot e^1 g^1 \cdot e^1 d^1 \cdot c^1$] は gis^1 音の同音で歌われている。

2番：5小節目の「みな・さん」[$a^1 c^2 \cdot g^1 e^1$]、9小節目の「すべ・りだ・い」[$d^1 e^1 \cdot g^1 a^1 \cdot g^1$]、11～14小節目の「きよー・も・なか・よく・あそ・びま・しょう」[$c^2 a^1 \cdot d^2 c^1 \cdot a^1 g^1 \cdot e^1 g^1 \cdot e^1 d^1 \cdot c^1$] は gis^1 音の同音で歌われている。

④ まとめ

以上のような結果から、年中児の「おはようのうた」は言葉が部分的に不明瞭であり、叫んで歌われていた。リズムは付点リズムのフレーズが4分音符、8分音符となる傾向がみられた。旋律は歌の大部分が gis^1 音の同音で歌われていた。

3. 年少児

(1) 「ならびましよう」

① 言葉と呼吸

1～4小節では、呼吸は1小節毎に行われている。11, 12小節目の「いち・に・さん・し・ご・ろく・しち・はち」のフレーズは一呼吸で歌っている。1, 2小節目の「なら・びま・しょう・なら・びま・しょう」の「ま」、3, 4小節の「は・やく・きれ・いに・なら・びま・しょう」の「く」「ま」、5小節目の「いち・れつ・いち・れつ」の「つ」は省略されている。9小節目の「あし・ぶみ・トン・

トン」, 11, 12小節目の「いち・に・さん・し・ご・ろく・しち・はち」は比較的正確に発音できている。その他の部分は言葉が不明瞭である。

② リズムとテンポ

歌のテンポは♩=132である。1, 2小節目の「なら・びま・しょう」[♪・♪・♪]は[♪・♪・♪]で歌われている。11, 12小節目の「いち・に・さん・し・ご・ろく・しち・はち」[♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪]の4分音符のリズムは比較的正確に歌われている。

③ 旋律

曲全体がgis¹音の同音進行によって歌われている。

④ まとめ

以上のような結果から、年少児の「ならびましよう」は、部分的に言葉が省略され、歌の大部分が不明瞭な状態であった。リズムは付点リズムが8分音符で歌われる傾向がみられた。旋律は曲全体がgis¹音の同音進行によって歌われていた。

(2) 「トントンまえ」

① 言葉と呼吸

呼吸は1小節毎に行っており、「トン・トン・ま・え」の言葉のまとまりは一呼吸で歌われている。全体的に弱弱しい声で歌っている。1, 2小節目の「トン・トン・ま・え」の「え」は省略され、「まー」と歌われている。3小節目は「トン・トン・ま・え」の「トントン」のみが発音され、「まえ」は発音されていない。9, 10小節目の「まえ」は遅れて発音されている。また12小節目は最後の「ま」のみが発音されている。4~6小節は言葉が不明瞭である。

② リズムとテンポ

歌のテンポは♩=132である。1, 2小節目の「トン・トン・ま・え」[♪・♪・♪]の「ま・え」[♪・♪]は♩のように2拍にまとめられており、拍に乗れず、遅れる傾向がみられる。9, 10小節目の「まえ」も同様な傾向がみられる。

③ 旋律

曲全体がgis¹音の同音進行で歌われている。

④ まとめ

以上のような結果から、年少児の「トントンまえ」は、部分的に発音されておらず、全体的に弱弱しい声で歌われていた。リズムも拍に乗れずに遅れて歌われる傾向がみられ、旋律は曲全体がgis¹音の同音で歌われていた。

(3) 「おむねをはりましょ」

① 言葉と呼吸

最初の4小節をまとめて呼吸している。1~4小

節目の「おむ・ねを・はり・ましょ・のぼ・しま・しょ」のみ発音されているが、一語一語が明確に発音されていない。5小節以降は言葉が発音されていない。

② リズムとテンポ

歌のテンポは♩=138である。全体的にリズムカルさはなく、1~4小節目の「おむ・ねを・はり・ましょ・のぼ・しま・しょ」[♪・♪・♪・♪]は[♪ (おむ) ♩ (ねを) ♩ (はり) ♩ (ましょ) ♩ (のぼ) ♩ (しま) ♩ (しょ)]のように歌っており、一音に一語が語れておらず、結果的に拍に乗れず、遅れて歌われる傾向がみられる。

③ 旋律

1~4小節目の「おむ・ねを・はり・ましょ・のぼ・しま・しょ」[g¹g¹・g¹a¹・g¹g¹・g¹e¹・c¹c¹・d¹d¹・e¹]はfis¹音の同音で歌われている。

④ まとめ

以上のような結果から、年少児の「おむねをはりましょ」は、大部分の言葉が発音されておらず、不明瞭な状態であった。発音できる部分も、リズムは拍に乗れずに遅れており、旋律は曲全体がfis¹音の同音によって歌われていた。

(4) 「おはようのうた」

① 言葉と呼吸

年長児、年中児と同様に、前奏の最後の部分と歌の終わりでは、子ども達全員が飛び上がる動作を行っている為、全員が「ピョン」という掛け声を発声している。

1番の7, 8小節目の「せん・せい・おは・よう」, 15小節目の「きょー」, 17小節目の「あそび」で呼吸のまとまりがみられるが、その他の大部分ではまとまりは感じられない。歌の大部分は不明瞭である。12~14小節は言葉が発音されていない。1, 2小節目, 15, 16小節目の「きょー・も・なか・よく」の「も」「く」, 8小節目の「おは・よう」の「う」, 16~17小節目の「なか・よく・あそ・びま」の「く」「ま」は発音されておらず、詰って発音されている。

2番においては曲の大部分が不明瞭である。3小節目の「せん・せい」, 9, 10小節目の「すべりだい」, 12~14小節目の「なか・よく・あそ・びま・しょう」のみがやや明瞭に発音されている。

② リズムとテンポ

歌のテンポは♩=132である。1番の1, 2小節目の「きょう・も・なか・よく」[♪・♪・♪]は[♪・♪・♪]と歌われており、付点リズムは8分音符で歌っている。15~17小節目の

「きょう・も・なか・よく・あそ・びま」[♩・♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪] は、[♩・♪・♪・♪・♪] のように付点リズムは4分音符、8分音符によって歌われている。

2番は大部分が不明瞭であるが、9、10小節目の「すべ・りだ・い」は[♩・♪・♪・♪]、11小節目以降の「きょう・も・なか・よく・あそ・びま・しょう」は[♩・♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪] のように8分音符のリズムに変化している。

③ 旋律

歌の大部分は歌えていないが、曲全体が gis^1 音の同音で歌われている。

④ まとめ

以上のような結果から、年少児の「おはようのうた」は、歌の大部分が不明瞭であった。部分的に発音できた箇所も言葉を正しく発音できず、詰って発音される傾向がみられた。付点リズムの箇所は正確に歌えておらず、リズムカルな躍動感を感じられない。旋律は曲全体が gis^1 音の同音によって歌われていた。

IV. 考察

1. 各年齢別にみる特徴

(1) 年長児

年長児の『朝のうた』では、言葉とリズムは全体的に正確であった。4曲共、呼吸は言葉のまとまりに従って行われており、子ども達は言葉の意味をある程度わかった上で呼吸をコントロールしながら歌っているのではないかと考えられる。

リズムにおいても、付点リズムは正確で、拍に乗ってリズムカルに歌われており、子ども達は拍を感じて歌っていると考えられる。また、歌のテンポは4曲を通して $\downarrow = 126 \sim 138$ の範囲であった。これを平均すると $\downarrow = 132$ となる。4曲目の「おはようのうた」の原曲の指定テンポは $\downarrow = 92 \sim 104$ であるが、 $\downarrow = 132$ となっており、かなり速いテンポで伴奏されている。この曲は4曲のメドレーの最後に歌われるため、前に歌われた3曲の勢いもあってテンポが速くなったと思われるが、子ども達にとってはかなり速いテンポであったと思われる。また、「ならびましょう」の「ランランラン」の「ン」や「トントンまえ」の「え」が省略されたのも、テンポが速すぎて言葉を丁寧に発音できなかったことが原因ではないかと考えられる。

旋律においては、子ども達が歌えた声域は「ならびましょう」では $c^1 \sim h^1$ 、「トントンまえ」は $d^1 \sim a^1$ 、「おむねをはりましょう」では $d^1 \sim g^1$ 、「お

はようのうた」では $d^1 \sim a^1$ であった。したがって、4曲全体を通して子どもたちが歌えた最低音は c^1 音、最高音は h^1 音となる。最高音である h^1 音は、「ならびましょう」の歌の中の最高音であり、比較的ピッチが正確に歌われているが、他の曲においては不正確であった。また、最低音の c^1 音も「ならびましょう」では比較的ピッチが正確であるが、他の曲では不正確な歌われ方をしていた。以上のことから、子ども達が4曲共に常時発音できていた最低音は d^1 音、最高音は a^1 音であると考えられ、年長児の歌唱可能な声域は $d^1 \sim a^1$ の範囲であると思われる。また、全体的に旋律の輪郭はほぼ形成されていると考えられるが、旋律の上昇下降が長6度上昇、完全4度下降、完全5度上昇等の大幅な部分は、同音や長2度下降、長3度上昇のような狭い音程に変化して歌われる傾向がみられた。旋律の上昇下降の意識はあるものの、音の跳躍は原曲よりも狭い幅に留まっている状態であると思われる。

(2) 年中児

年中児の『朝のうた』では言葉の発音が明瞭でまとまりに従って歌われる曲と、言葉が部分的に不明瞭で、唱え言葉のように叫んで歌う曲がみられた。言葉が未だ安定して正確に発音できない状態であると思われる。

また、リズムにおいては付点リズムは8分音符や4分音符で歌われており、大部分が拍に乗れず、リズムカルに歌えていない状態であった。言葉が未だ正確に発音できないため、リズムもまだ不安定な状態であると思われる。また、歌のテンポは4曲を通して $\downarrow = 138 \sim 144$ の範囲であった。平均すると $\downarrow = 141$ となり、4曲を通してかなり速いテンポが提示されていた。言葉が正確に発音されない状態において、速いテンポが提示されたため、唱え言葉のように発音したり、叫ぶような歌声になったものと考えられる。また、「ならびましょう」の「ランランラン」の「ン」や、「トントンまえ」の「え」が省略されたことも、テンポが速すぎて言葉を正確に発音できなかったことが要因ではないかと考えられる。

また、旋律においては、子ども達が歌えた声域は「ならびましょう」は $fis^1 \sim a^1$ 、「トントンまえ」は $e^1 \sim gis^1$ 、「おむねをはりましょ」は $e^1 \sim g^1$ 、「おはようのうた」は $f^1 \sim a^1$ であった。したがって、4曲全体を通して子どもたちが歌えた最低音は e^1 音、最高音は a^1 音であり、年中児の歌唱可能な声域は $e^1 \sim a^1$ の範囲であると考えられる。また、旋律の大部分は e^1 、 f^1 、 fis^1 、 gis^1 、 a^1 音の同音進

行によって歌われており、この段階では旋律の上昇・下降は未だ形成されていない状態であると考えられる。

(3) 年少児

年少児の『朝のうた』の問題点は、言葉が明瞭に発音できず、曲の大部分で呼吸のまとまりが感じられないことであった。この段階では言葉を未だ理解できていないものと考えられる。リズムも全体的に拍に乗れず、遅れる傾向がみられた。年少児は日常の言葉に喃語が混じる場合も多く、言葉が正しく発音できないために、未だリズムの形成もなされていない状態であると考えられる。また、歌のテンポは4曲を通して♩=132~138の範囲であり、平均すると♩=134のテンポであった。これは年長児、年中児と同等の速さであり、年少児にとってはテンポがかなり速すぎることも言葉を明瞭に発音できない要因ではないかと思われる。旋律においては全体的にfis¹音、gis¹音の同音によって歌われており、これらの曲については未だ旋律の上昇・下降は全く形成できていない状態であると考えられる。

(4) 全体的な考察

今回の『朝のうた』の調査の結果、年長児はかなり正確に歌えていたものの、年中児は言葉、リズム、旋律の面において未だ不安定な状態であった。年少児においてはすべての面において問題点がみられた。

一般的に、年少児は未だ声域が狭く、言葉に喃語が混じっており、旋律の音高を聞き分けることも難しいと言われている。このことを考慮せずに教材を選択することは、無理な発声となり、子どもの声帯を傷つける可能性もあると指摘されている¹⁴⁾。また、自分のペースで歌うことが中心で、集団で声を揃えることすら難しい年少児にとって、年長、年中と同じ歌唱教材を与え続けることは子どもの歌う意欲を削ぐことにつながるのではないだろうか¹⁵⁾。吉富は「『幼児の歌唱の形態』という視点の希薄な

ままに、季節感、年中行事、生活指導などを視点として選曲された場合には、幼児にとって不適切な高音を含む曲を選択することになる場合も少なくありません。年齢が小さければ小さいほど、音楽の論理と大人の論理を控えて、子どもの論理を優先させることが必要です。」と述べている¹⁶⁾。以上のことから、年少児においては2、3音からなる短く単純な節からなるわらべうたのような教材が相応しいと思われる¹⁷⁾。

また、教材の選択と共に、保育者が子ども達の歌声をきちんと聴く姿勢が重要であるとする。羽根田は幼稚園での集団歌唱において、ピアノ伴奏があることと担任が同席することは、子どものだなり声を誘発すると指摘している¹⁸⁾。保育者はとにかくピアノを弾くことに集中しがちであるが、その為に子ども達の歌声や表情を正確に把握できていないことも多いのではないだろうか。よって、歌の指導においては、常時、ピアノで伴奏することを当たり前とせず、時にはピアノ伴奏なしで保育者が一緒に歌うなど、状況に応じた歌唱形態によって、子ども達の歌声を聴きとり、子どもが歌うことに対して意欲を持てるような保育者の関わり方が重要であると思われる。

V. おわりに

今回の調査によって、各年齢の歌唱活動の発達段階に応じた教材を選択することや、学習方法を理解した上で、子どもの歌声を保育者が聴く姿勢を持ち、子どもの実態に応じた歌の活動を行うことが重要であることが明らかになった。さらに、『朝のうた』とは子どもにとって本来どのような意味をもつものなのか改めて考えていくことも重要ではないだろうか。今後は、年齢別に具体的にどのような歌唱教材がふさわしいのかについて検討すると共に、保育者養成課程の学生に、幼児の音楽活動における教材選択の重要性や子どもの実態に応じた活動の在り方を伝えていきたい。

譜例 1. 「おはようのうた」(年長児)

1 番

♩=132



きょー も な かよ く あ そび ましよ 《ピョン》



お はよう お はよう せん せい お はよう



み なさん お はよう お ひさ まに こに こ



よ いてん き きょう も な かよ く



あ そび ましよ 《ピョン》

2 番

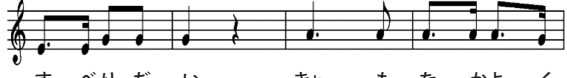
♩=132



お はよう お はよう せん せい お はよう



み なさん お はよう お すな ば ままご と



す べり だ い きょー も な かよ く



あ そび ましよ 《ピョン》

譜例 2. 「おはようのうた」(年中児)

1 番

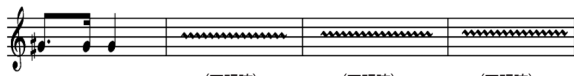
♩=138



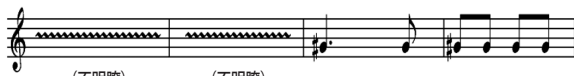
きょー も な かよ つ あ そび しょう 《ピョン》



(歌っていない) お はよう せん せい お は (不明瞭)



み なさん (不明瞭) (不明瞭) (不明瞭)



(不明瞭) (不明瞭) きょー も な かよ く



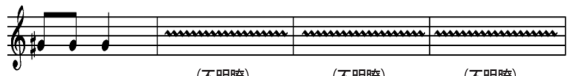
あ そび ましよ 《ピョン》

2 番

♩=138



(歌っていない) (不明瞭) せん せい お はよう



み なさん (不明瞭) (不明瞭) (不明瞭)



す べり だ い きょー な かよ つ



あ そび ましよ 《ピョン》

譜例3. 「おはようのうた」(年少児)

1番

♩ = 132



きよー — な か よつ (不明瞭) 《ピョン》



(不明瞭) (不明瞭) せん せい おは よつ



み な さん (不明瞭) (不明瞭) (歌っていない)



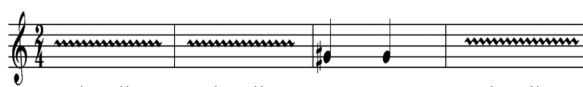
(歌っていない) (歌っていない) きよー — な か よつ



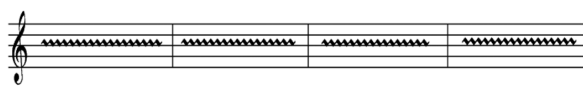
あ そ び (不明瞭) 《ピョン》

2番

♩ = 132



(不明瞭) (不明瞭) せん せい (不明瞭)



(不明瞭) (不明瞭) (不明瞭) (不明瞭)



す べ り だ い — きよー — な か よ く



あ そ び ま し ょ う 《ピョン》

注

1) 8呼間とは8拍のことを示している。呼間とは曲の「拍」を示し、1呼間とは1拍のことを示す。拍子が異なる曲において共通した拍の表現方法として用いている。

引用・参考文献

- 1) 武田道子・加藤明代(2007)「乳・幼児の歌唱能力の発達に関する一考察Ⅲ—音程の分析を通して(1)—『静岡大学教育学部研究報告 教科教育学篇』第38号 pp.255-264.
- 2) 久富さよ子(1991)「幼児の旋律形成過程に関する事例研究」『中村学園研究紀要』第23号 pp.113-120.
- 3) 岡林典子(1995)「幼児の歌唱表現に関する考察—その実態と歌唱音程に影響を及ぼす要因について—『聖和大学論集教育学系』第23巻 pp.303-323.
- 4) 武田道子・加藤明代(2004)「乳・幼児の歌唱能力の発達に関する一考察Ⅰ—声域調査の分析を

通して—』『静岡大学教育学部研究報告 教科教育学篇』第35号 pp.247-258.

- 5) 鍛冶礼子・小林直実・紫竹英恵・宮野モモ子(2006)「幼児への歌唱指導についての一考察—自分から歌う時の声域—」『千葉大学教育学部研究紀要』第54巻 pp.63-68.
- 6) 水崎誠(2007)「幼稚園年長児の無伴奏歌唱の特質」『北海道教育大学紀要(教育科学編)』第58巻 第1号 pp.189-196.
- 7) 羽根田真弓(2008)「幼児の集団歌唱にみられる「どなり声」の実態(1)—ピアノ伴奏・指導者の声かけとの関連—」『鳥取短期大学研究紀要』第57号 pp.11-19.
- 8) 坂井康子・五味克久(2003)「子どもの歌唱に関する研究について—幼児の「つくりうた」の分析に基づく提言—」『神戸大学発達科学部研究紀要』第10巻 第2号 pp.327-336.
- 9) 白石昌子(2000)「幼稚園教師の音楽教材の選択規準に関する調査研究」『福島大学教育実践研究紀要』第39号 pp.89-94.
- 10) 吉永早苗・田坂安樹子(2003)「幼児の感性を育成する音楽教育に関する考察(Ⅰ)—幼稚園歌

- 唱教材の変化を手がかりとして一』『ノートルダム清心女子大学紀要・生活経営学・児童学・食品・栄養学編』第27巻 第1号 pp.27-34.
- 11) 久富さよ子 (1990) 「幼児の歌にみる言葉とリズムの発達」『全国大学音楽教育学会研究紀要』第2号 pp.71-79.
- 12) 久富さよ子・棚田聡美 (1991) 「幼児の歌の発達にみられる言葉, 旋律, リズムの関連性」『中村学園研究紀要』第23号 pp.121-126.
- 13) 前掲書8) に同じ
- 14) コダーイ芸術教育研究所 (2008) 『わらべうたわたしたちの音楽—保育園・幼稚園の実践—』明治図書 pp.19-26.
- 15) 岸井勇雄・小林龍雄・高城義太郎・朽尾勲編 (1990) 『現代幼児教育研究シリーズ表現Ⅱ 音楽的表現』チャイルド本社 pp.72-81.
- 16) 音楽行動研究会編 (2001) 『幼稚園・保育園のための音楽教育法—子どもの実態を重視した—』西日本法規出版 pp.40-42.
- 17) ヴェトルーギナ他著 高塚雅彦訳 (1984) 『幼児音楽教育の方法』新読書社 pp.52-56.
- 18) 前掲書7) に同じ